

# 第15回 都城市市民意識調査

## ふれあいアンケート結果



市では、市民の皆さんの意見を市政に反映させるため、6月から7月にかけて「都城市市民意識調査(ふれあいアンケート)」を実施しました。調査に協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

今回は、満18歳以上の約12万人の市民の皆さんの中から無作為に選んだ3,000人を対象に、本市の住みやすさや郷土料理、デジタル化、健康、がん検診、環境問題、男女共同参画などについて調査を行いました。

回答者は1,201人(男性441人、女性736人、答えたくない8人、無回答16人)で、回答率は40%でした。詳しい結果は、市ホームページで紹介します。 ◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

### ●男女別回答者数

性別	回答者	比率
男性	441人	36.7%
女性	736人	61.3%
答えたくない	8人	0.7%
無回答	16人	1.3%
<b>計</b>	<b>1,201人</b>	<b>100.0%</b>

### ●年代別回答者数

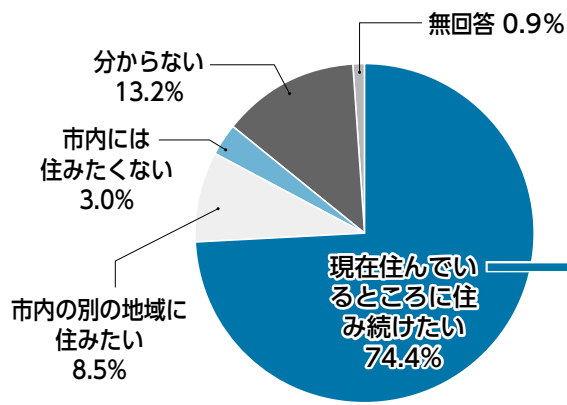
年代	回答者	比率
10代	5人	0.4%
20代	74人	6.2%
30代	133人	11.1%
40代	182人	15.2%
50代	195人	16.2%
60代	292人	24.3%
70代以上	304人	25.3%
答えたくない	4人	0.3%
無回答	12人	1.0%
<b>計</b>	<b>1,201人</b>	<b>100.0%</b>

### ●地区別回答者数

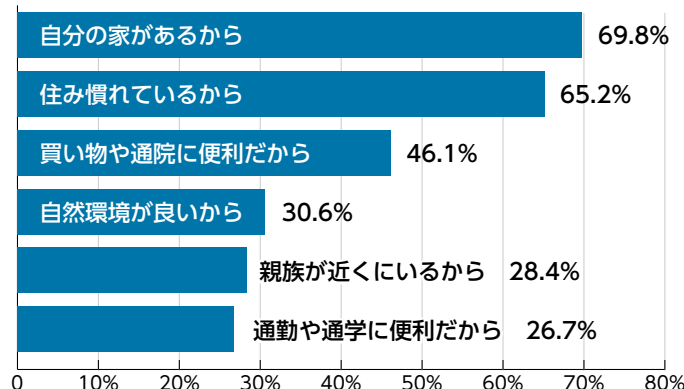
地区	回答者	比率
姫城	78人	6.5%
妻ヶ丘	168人	14.0%
小松原	82人	6.8%
祝吉	154人	12.8%
五十市	111人	9.2%
横市	101人	8.4%
沖水	95人	7.9%
志和池	57人	4.7%
庄内	47人	3.9%
西岳	12人	1.0%
中郷	51人	4.2%
山之口	35人	2.9%
高城	101人	8.4%
山田	44人	3.7%
高崎	49人	4.1%
無回答	16人	1.5%
<b>合計</b>	<b>1,201人</b>	<b>100.0%</b>

●解説  
約8割の人が「現在住んでいるところに住み続けたい」「市内の別の地域に住み続けたい」と答えています。年代別にみると、70代以上と60代の約9割が「現在住んでいるところに住み続けたい」「市内の別の地域に住み続けたい」と答えていて、次いで50代、

40代という順になっています。住み続けたい理由については、「自分の家がある」「住み慣れている」が高い結果となりましたが、次いで「買い物や通院に便利」「自然環境が良い」と答えた人も多く、生活圏の利便性や環境に満足している人も一定数いることがうかがえます。



「現在住んでいるところに住み続けたい」と答えた人のみ回答 (複数回答 上位6項目)



Q これからも都城市に住み続けたいですか。

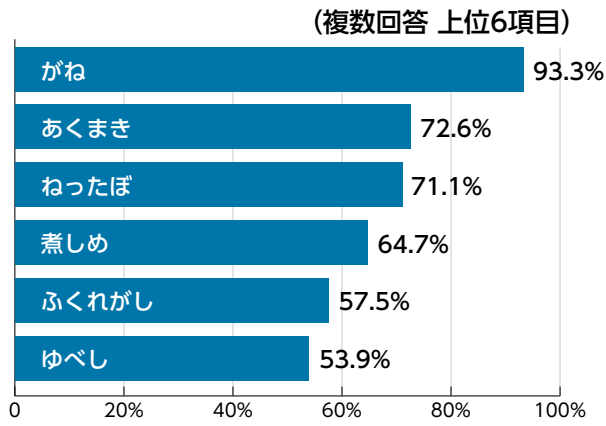
Q 住み続けたいと答えた理由を教えてください。

## 都城市の住みやすさ

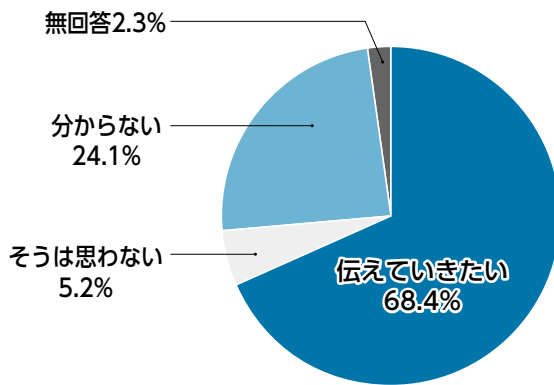


# 郷土料理

**Q** 都城の郷土料理だと知っている料理は何ですか。



**Q** 郷土料理を代々伝えていきたいと思えますか。

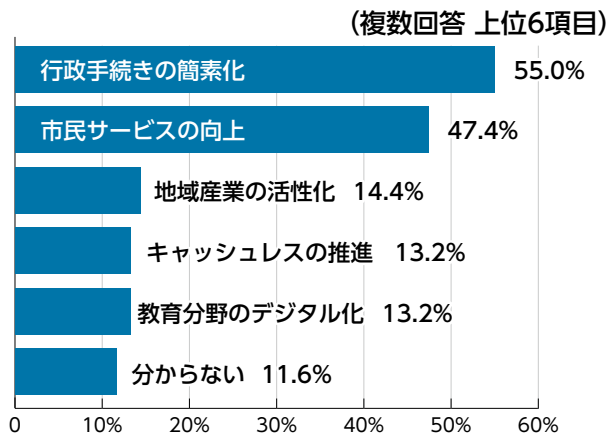


**●解説**  
知っている郷土料理は何か、郷土料理を代々伝えていきたいと思うかについて調査を行いました。  
「知っている郷土料理」については「がね」が唯一9割超えとなり、年代別に見ても、全年代において最も認知度の高い結果となりました。その他の料理については、各年代で多少

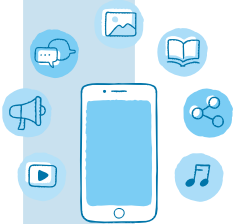
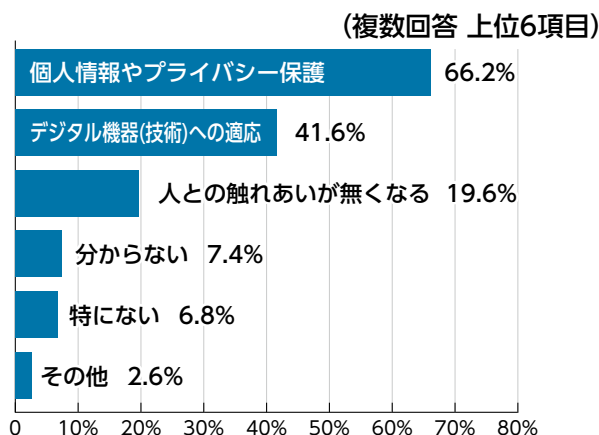
の差はあるものの、おおむね似た傾向となりました。  
「代々伝えていきたいか」については、「伝えていきたい」と答えた人が約7割となりました。  
郷土料理は、地域に昔から伝わる大切な食文化です。食を通して地域の自然の豊かさを知り、愛着や感謝の気持ちを育みましょう。

# デジタル化

**Q** デジタル化が進むにあたり、市役所に期待することは何ですか。



**Q** デジタル化が進むにあたり、不安に思うことは何ですか。



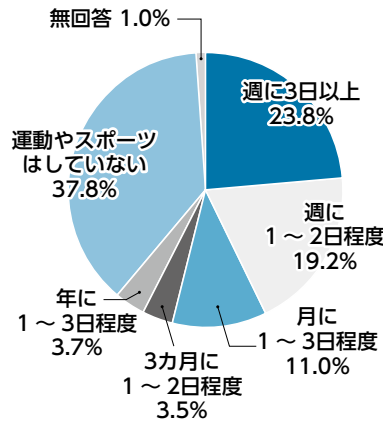
**●解説**  
デジタル化における期待と不安について、調査を行いました。  
「市役所に期待すること」については、「行政手続きの簡素化」が約55%、「市民サービスの向上」が約47%と、2つの項目が高い結果となりました。  
また、「不安に思うこと」について

は、「個人情報やプライバシー保護」が約66%、「デジタル機器(技術)への適応」が約42%となりました。  
市では、しっかりとしたセキュリティ対策を講じるとともに、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」実現のため、助けを必要とする人に十分な支援が行き渡るよう、取り組みを進めています。

# 健康

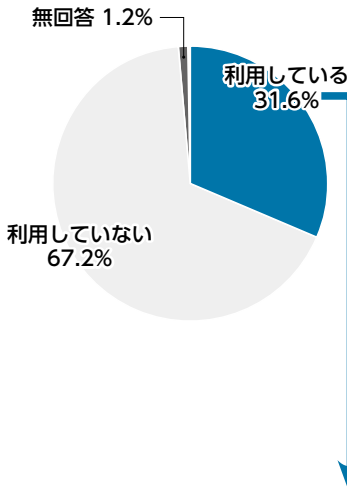
Q

健康や楽しみなどのために、運動やスポーツ（体操やウォーキングなどを含む）を行っていますか。



Q

普段、歩数計やウォーキングアプリを利用していますか。



●解説

健康づくりのために、どの位の頻度で運動やスポーツをしているか、調査を行いました。

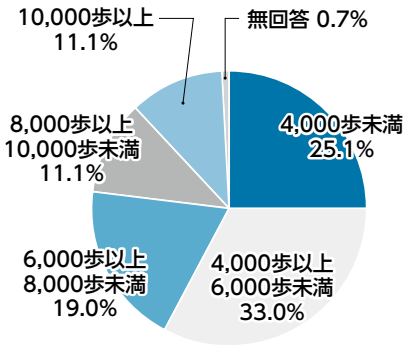
その結果、週に1回以上運動をしている人は約4割という結果でした。年代別に見ると、60代は約45割、70代以上は約60割が週に1回以上運動をしていると答えました。一方、30・40・50代は「運動やスポーツをしていない」と答えた人が4割を超える結果となりました。



Q

1日の平均歩数はどの程度ですか。

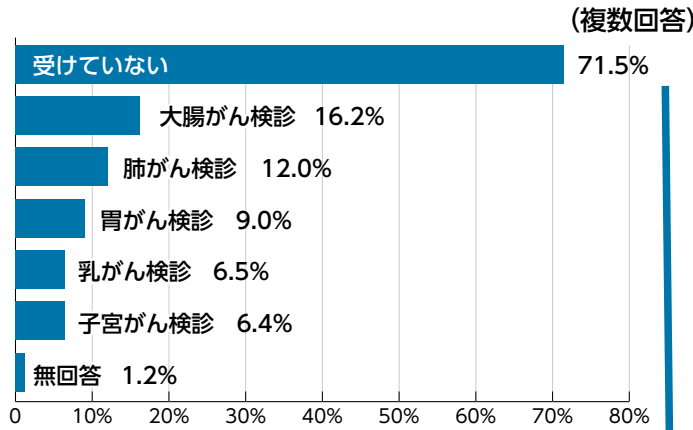
「利用している」と答えた人のみ回答



# がん検診

Q

昨年度に市が実施したががん検診を受けましたか。



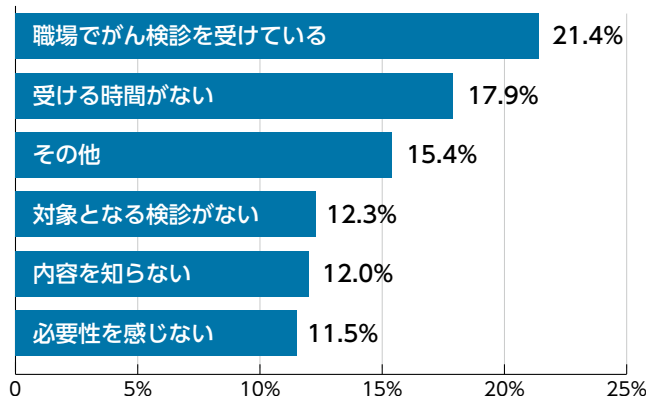
●解説

がん検診を受けているか、受けなかった場合は、受けなかった理由について調査を行いました。市が実施したががん検診を受けていない人は約72割でしたが、そのうち約21割の人が「職場でがん検診を受けている」と答えていて、全く受けていない人は

Q

市が実施したががん検診を受けなかった理由は、何ですか。

「受けていない」と答えた人のみ回答  
(複数回答 上位6項目)



全体の約56割となりました。

また、女性のみの回答のうち、乳がん検診と子宮がん検診を受けた人はそれぞれ約10割でした。市ではがん検診の受診率向上の取り組みとして、検診ガイドの配布や、子宮がんおよび乳がん検診の無料クーポン券などを対象者に送付しています。



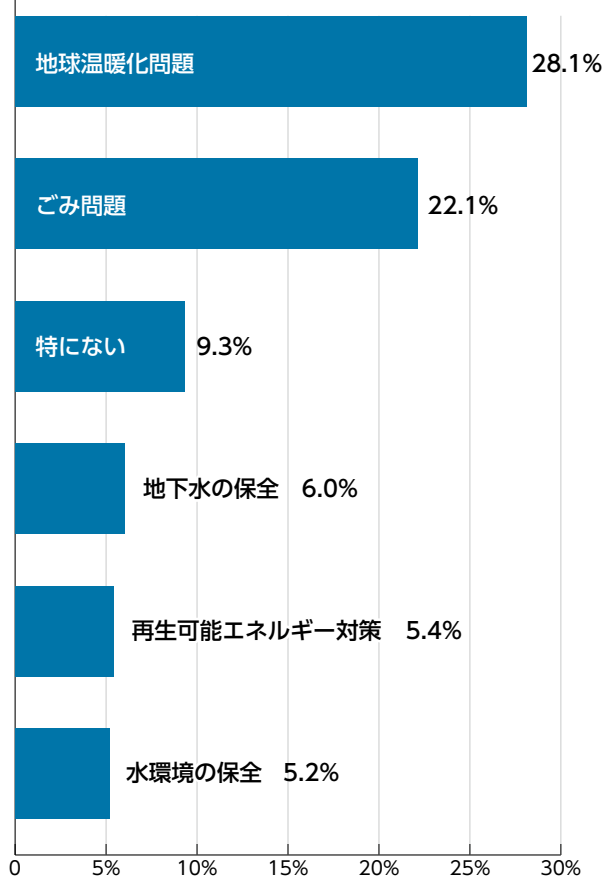
# 環境問題



Q

最も関心のある環境問題を、1つだけ選んでください。

(上位6項目)



●解説

市民がどのような環境問題に関心を持っているのか、調査を行いました。前回(H31)の調査では「ごみ問題」が最も多く、次いで「地球温暖化問題」という結果でしたが、今回は「地球温暖化問題」が約28割と最も高い結果となり、約22割の「ごみ問題」と合わせて半数を占め、前回に続いて2つの問題への関心の高さが分かる結果となりました。

●解説

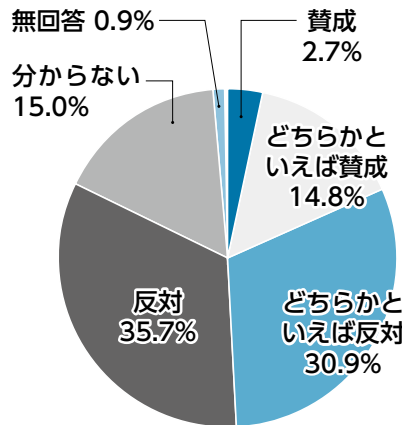
「地球温暖化問題」の割合が高くなった理由として、局部豪雨や台風の大規模化など、近年の異常気象を受けて、意識に変化が出てきているものと推測できます。年々深刻化する環境問題について考え、次世代のために何ができるのか、日頃から考えて行動していきましょ。

# 男女共同参画



Q

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する考え方に、どう思いますか。

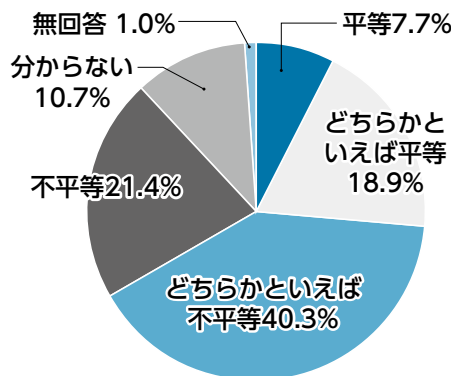


●解説

男女の役割や地位についてのどのように感じているのか、調査を行いました。「性別で役割を固定する考え方」について、「反対」どちらかという「反対」と答えた人が約67割となりました。男女別で見ると、男性の約61割が「反対」とどちらかという「反対」と答えたのに対し、女性は約70割でした。「男女の地位は平等だと思つか」に

Q

「社会(政治や職場など)において、男女の地位は平等」だと思いますか。



●解説

についても、「不平等」とどちらかという「不平等」と答えた人が約62割となりました。男女別で見ると、男性の約54割が「不平等」とどちらかという「不平等」と答えたのに対し、女性は約66割となりました。どちらも10割前後差があることが分かります。また、年代別でみた場合は男女別ほどの差はなく、世代差よりも男女差で意識に差があることが読み取れる結果となりました。